

浦安市協働事業「浦安景観まちづくり連続講座」 建築時の景観への配慮（第5回）が開催されました

2014年度「浦安景観まちづくり連続講座」の第5回「建築時の景観への配慮」が、1月18日（日）午後、美浜公民館で開催されました。午前中はうらやす景観まちづくりフォーラムによるまちあるきも実施されました。比較的穏やかな天気の中、17名の方にご参加いただき、ありがとうございました。当日の様子をご紹介します。

■海楽・北栄・猫実のまちあるき

午前中はうらやす景観まちづくりフォーラムの大和稔さんの案内で海楽、北栄、猫実の既成市街地を歩きました。美浜公民館に集合し、最初は平成21年地区計画が設けられた美浜16自治会地区の赤煉瓦の土留めの整った低層戸建て地区を通り、その後、ほぼ同じ時期に開発され、昭和63年に共同住宅を制限する地区計画を設けた海楽パークシティを歩きました。海楽公園では「四季の花クラブ」による花壇の美化活動が行われています。



まち歩きの様子（海楽パークシティ）

修景されていない猫実川を渡るとかつては工場が多く、現在ではマンションが多い北栄4丁目に入りました。一筋おきに道路と用水路を簡易舗装した歩道状空地による道路パターンとなっていて、歩道空間の修景ができると潤いある景観となりそうです。今回は浦安市が景観条例に基づき事前協議を行なった建物も、いくつか確認しました。ここでは外壁の色彩と外構仕様のいったい感のある11戸の戸建分譲を確認しました。

その後、柳の街路樹が少ない柳通りで、マンションの設備機器を植栽で囲った事案、赤地の看板のエンジの看板外壁が、ルーバーにより正面でな



まち歩きの様子（洒落た看板建築）

いと見えない洒落た建物を確認しました。

海楽1丁目は、ミニ戸建と戸建、共同住宅が混在する地区で、様々なデザインの共同住宅を確認しました。全体に景観協議されたものは、色彩やごみ置場、設備機器などの配置や見え方に配慮されていますが、道路沿いの緑が少なく潤いを感じる景観になっていない気がします。

■建設時の景観への配慮

午後は、建築時に景観への配慮についての講義を行いました。

●まちなみと色彩

最初にカラーコンサルタントの福島圭子さんより、まちなみと色彩について事例を紹介していただきながらご講演いただきました。



カラーコンサルタント福島さん

最初に色の基礎知識の話事例の写真をみせながら説明していただきました。

色の三属性：色相・明度・彩度

□色相：色味の性質のこと

□明度：色の明るさの度合いのこと

□彩度：色味の強弱の度合いのこと

□無彩色：色味を持たない色～白・黒・グレー

□有彩色：色味を持つ色～赤・黄・緑・青など

明るい色は、軽く見える、柔らかく見える、膨張して見える。暗い色は、重く見える、硬く見える、収縮して見える。

明るい色と暗い色をミックスするとコントラストが強くなり個性が強くなり、白と黒ではモダン的

に見えますが、倉敷のような古い町並みでも使われています。

彩度が高い色は派手に見えますが、彩度の低い色は地味に見え、シックで伝統を感じます。



まち歩きした地区の写真を取り上げて、街並みの調和について話をさせていただき、最後に、浦安市の色彩基準の考え方について景観計画の色彩基準の資料を使って話をさせていただきました。

浦安の色相はオレンジ系と黄色系で半分くらい、無彩色が4割くらいと他の町と同じような分布となっています。オレンジだけ彩度が少し強くても調和できるので、そのような基準となっています。無彩色とオレンジ系の色彩はあきが来ない色です。ちょっと生々しい色の時にはグレーを入れて濁らせると、なじみやすい色となります。

色を揃えるのが必ずしも色のコーディネートとは言えない、青は空や海の色、緑は植物の色と、自然の色なので、人工的なものにはアクセントで使い、ベースには使わない方がよいです。

色は景観で非常に訴える力が強いが、ちょっとした工夫や見方で違って見えるようになります。浦安らしい色、浦安に似合う色は何か？という質問に対して、浦安は開放感のある雰囲気になろうと、明るい色、白っぽい色を使い、鮮やかな色を使うことで、リゾート感が演出できます。

欧米から帰るとゴミゴミして汚い印象を得るが？日本も欧州も古い街並みが残る地区は、貧乏な時代で素材も限定されていたため、色を多く使うことができなく、美しく、また、欧米は色のルールができています。

欧州は、ドアの色を変える時に周辺住民の同意を得るが、日本で色を調和させている場所はある

か？欧州は住宅の外側を周辺に合わせて、中は個性あるインテリア、日本は家の中を同じようなインテリアにするが、外側は個性を出そうとしています。衣服の文化の違いにあるのではないのでしょうか。また、日本人の街並み色彩意識が低いのではないか。

色だけではなく素材が大事で自然素材の色と人工物の色は同じ色でも違う。人工的な物は光沢があるので強く感じるの、素材を見せたい時には色を抑えていると素材が引き立ちます

●景観形成基準主な事項

休憩後、うらやす景観まちづくりフォーラムの浅川潔さんから、浦安市景観条例の景観形成基準の主な事項について参考写真を使って説明をしていただきました。最初に街並みの構成要素の分類について、その後、敷地利用の緑化・修景・水辺・色彩等、建築物の工作物の形態意匠のデザイン・色彩・素材・修景・屋外広告などについて、参考写真を見せながらの説明がありました。

●景観形成基準主な事項

最後に都市計画課の谷川愛子さんから市が景観条例を基に事前協議を行なった事例を紹介していただきました。景観条例における建築行為等は、地区や規模により違いはあるが、事前協議、届出、自主確認で規制誘導されています。また工事完了時には現場写真、色彩。配置のチェックを行い検査済証が交付されます。その後、戸建て住宅開発、店舗の色彩変更、大規模建築の事前協議の事例を紹介していただきました。



都市計画課 谷川さん

最後に参加者から質問やご意見をいただきました。参加者から景観条例があっても道路沿いの立体的な緑が少なく、花木が少ない、景観協議しても緑が少なく、バックヤードや設備、外観などあまり良い景観になっていない、電線の地中化など、辛口のご意見をいただきました。

最後に参加者から質問やご意見をいただきました。参加者から景観条例があっても道路沿いの立体的な緑が少なく、花木が少ない、景観協議しても緑が少なく、バックヤードや設備、外観などあまり良い景観になっていない、電線の地中化など、辛口のご意見をいただきました。